



# 鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



被爆80年原水禁長崎大会号 NO—184 2025年9月22日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email: info@k-peace-forum.org  
連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

## 「被爆80年原水禁長崎大会」

8月7日～9日まで、長崎県長崎市で「被爆80年原水禁長崎大会」が開催されました。全国各地から総勢1,000人以上が参加（鹿児島県から14名参加）、被爆の実相についてしっかり学び、爆心地公園では折鶴を献納し、亡くなられた方々の冥福を祈り、核兵器廃絶と非戦を誓いました。参加者の感想文を編集しましたので、構成組織での活用をお願い致します。



### 被爆80周年 原水爆禁止世界大会・長崎大会

日置市職員労働組合  
外菌 雄一

2025年8月7日から9日、被爆80周年原水爆禁止世界大会・長崎大会に参加させていただき、ありがとうございました。

1日目に開会行事があり「被爆者の訴え」で、被爆体験者の方の話を聴かせていただきました。今もなお「被爆者と被爆体験者」で差別している日本政府に、怒りを覚えました。

全国から選出された24人の第28代高校生平和大使と高校生1万人署名活動実行委員会の「微力だけど、無力じゃない」との想いを基にした活動の報告がありました。

2日目私は、午前中の分科会「② 平和と核軍縮Ⅱ－日本国内の動き」に参加しました。沖縄平和運動センターの岸本喬事務局長と鹿児島県護憲平和フォーラムの磨島昭広事務局長から日米軍事演習・鹿屋基地での米軍機KC-130 給油訓練・奄美駐屯地のミサイル配備と瀬戸内分屯地の弾薬庫建設・馬毛島基地建設・さつま町弾薬庫建設に、川内原発20年延

長問題の報告がありました。その後、名古屋学院大学の飯島滋明教授が、米軍占領下の沖縄に持ち込まれた核弾頭約 1,300 発とその配備状況と、敵基地攻撃の最前線におかれている

「沖縄・九州」の現状やアメリカの要求に応える「戦争する国づくり（南西諸島・九州の軍事化、敵基地攻撃能力、米軍に代わり自衛隊が戦うことに、戦死者すら想定）」憲法 9 条に自衛隊明記の改憲論問題（「徴兵制・民間人の戦地派遣」の法的根拠）「核兵器」「原発」と憲法的評価（差別や偏見、いじめ）などを話されました。

午後からのひろば「⑨ 話芸で学ぶ「平和と核」（落語と講談）」に参加しました。落語は古今亭菊千代さんで、講談は田辺一乃さんでした。第五福竜丸（遠洋マグロ漁船）と無線長の久保山愛吉さんのはなし。1954 年 3 月 1 日、アメリカがビキニ環礁で水素爆弾実験を行い、乗組員 23 名が死の灰（多量の放射性降下物）を浴びた。火傷、頭痛、嘔吐、眼の痛み、歯茎からの出血、脱毛などの症状があったが、SOS など発信出来ず約 2 週間後に帰港。半年後に久保山さんは亡くなられた。実験海域での被爆の事実を隠蔽しようとする米軍に撃沈されることを恐れていたとのこと。次に、ゴジラのはなしに移り、水爆大怪獣映画「ゴジラ」は、ビキニ環礁の核実験に着想を得て製作され、製作の経緯やゴジラ命名の経緯、ゴジラ役（着ぐるみ）。人間が生み出した核兵器によって現れた怪獣が人間の手によって葬られるという、人間の身勝手さを表現した作品でした。

最終日の 3 日目は、閉会総会に臨みましたが、非核平和行進は雨天中止となり各々が爆心地公園まで歩き爆心地碑前に集合し、原爆投下時刻、午前 11 時 2 分に黙とうを捧げました。

核兵器の根絶と真の世界平和の実現に向けて、私たちが声を上げ続け、一致団結して取り組まなければならないと強く感じました。

## 原水爆禁止世界大会・長崎大会

鹿兒島ブロック護憲平和フォーラム  
事務局長 吉村 公宏

1945 年の長崎県への米軍による原爆投下から 80 年という月日が経ちました。今もなお被爆の後遺症に苦しむ被爆者が大勢いる中、「核と人類は共存できない」という信念で 8 月 7 日～9 日に掛けて被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・長崎大会が開催されました。

2024 年のノーベル平和賞は、日本被団協が受賞しました。被爆者による草の根の運動で核兵器のない世界実現のため、核兵器が二度と使われてはならない事を目撃証言を通じて示して来たことが授賞理由です。被団協のメンバーである被爆者らは、核兵器の使用がもたらす人道上の破滅的な結果について認識を高めるため、たゆまぬ努力を続け、核兵器の使用は道徳的に許されないと烙印を押す力強いメッセージが、国際的に醸成されました。このメッセージは「核のタブー」として知られています。



日本被団協がノーベル平和賞を受賞して初めての世界原水爆禁止長崎大会。核兵器廃絶の機運は世界的に確実に高まっています。にもかかわらず、日本政府の核兵器廃絶の動きは、全く見られません。2025 年 3 月、国連で核兵器禁止条約の第 3 回締約国会議が開催されましたが、日本政府はオブザーバー参加も見送りました。日本は唯一の被爆国です。核兵器のむごさや悲惨さを最も知る国です。日本が核兵器の廃絶を国家として訴えなければ、核兵器の廃絶は望めません。日本政府は、アメリカの「核の傘」に依存し、核抑止力が必要不可欠であるとした安全保障を重視していますが、それでいいはずはありません。

日本被団協の運動と日本政府の対応は、全くの真逆です。世界原水爆禁止長崎大会参加し、学習する中で日本政府の対応に怒りがこみあげて来ました。真夏の長崎でこの熱い思いを草の根の核廃絶運動にささげたいと思いました。

8 月 9 日、爆心地公園の献花台に千羽鶴を供えました。その後、11 時 2 分、80 年前の原爆投下を思いました。被爆者の苦しさを思うと涙があふれて来ました。被爆者の中には鹿児島から三菱重工に動員され犠牲になった若者も大勢いたとの事です。鹿児島にも被爆の関係者は多くいらっしゃいます。原爆投下はまさに自分事です。

核兵器は一瞬にしてすべてを焼き尽くします。今回、核兵器のむごさ悲惨さを再確認しました。これから核兵器廃絶に向け自分が出来ることをやり続けます。

## 被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・長崎大会に参加して

日置市

比良 加奈美

1 日目、開会行事に参加。

全国から参加している高校生の思いや発表に圧倒されました。今まで、テレビ等でしか見ることしかなかった高校生たちの活動に共感し、不戦の誓いを改めてしたところでした。

2 日目、第 2 分科会。午前、沖縄県の現状と鹿児島県の取組について発表がありました。

日本という国が、鹿児島がどういう状況で私たちは、どういう風に日本を私たちの子供たちを守っていかなければならないかを改めて考えさせられました。鹿児島県でも私たちの知らないこととか、磨島さんたちが行動されている現状に衝撃をうけました。磨島さんは凄い人だということを知りました。

午後から映画「ひろしま」を鑑賞しました。幸せだった日常が一瞬にして破壊された現状に被災者は、何が起きているかもわからず、苦しみ悲しみ露頭に迷い、家族を失った。原爆の惨さを、強烈に目の当たりしました。

現在、戦争をしている国々の人々に見せてあげたいくらいでした。被災地である日本人として原爆の恐ろしさに声を挙げていかなければならないと思いました。



3 日目、閉会式。高校生に圧倒され、若者が世界中の人達と原子力の悲惨さを共有し、廃絶に取り組めばこれからの未来に希望を感じました。

非核平和行進は出来ませんでした。爆心地公園で亡くなられた方々に不戦の誓いをして、鹿児島に帰って来ました。磨島さんには、発表や事務局としてお忙しいところ、色々私たちの面倒を見て頂き、ありがとうございました。

## 被爆 80 周年原水爆禁止世界大会に参加して

私鉄鹿児島交通労組

松永 典子

参院選で耳を疑うような言葉をききました。

「核武装が最も安上がりであり、最も安全を強化する策だ」この考えは世間には到底受け入れられないだろう。しかし、その候補者はかなりの票を集めて当選しました。多様性の時代。世の中には色んな考え方の人がいる。互いに尊重しあい共生していく。今までそう思っていたのですが、どうしても私には「核武装が安上がり」の言葉を受け入れることができませんでした。今まで信じていた平和への考え方が根底から覆されるような気持ちになりました。

今一度核について、戦争と平和について学び考えてみたいとの思いで今回参加しました。分科会で静岡からの参加者が第五福竜丸事件の事にふれ、そこから平和運動へ繋がったと知りました。きっかけとなった第五福竜丸の事件についてもっと知りたいと思いました。

1954 年 3 月 1 日早朝、公海上で操業中だった遠洋マグロ漁船第五福竜丸の西の空が太陽のように赤く光った。しばらくして海底から地響きが。何かあったのでは？逃げるにも延縄を巻き上げなければ動けない。2 時間後白いものが雨と混ざりみぞれのように降ってきた。目にも口にも入る。砂のようにジャリジャリした。デッキにも積もり始める。米軍の立ち入り禁止区域も近い。拿捕されるのではないかとと思えば無線で周りとの交信することもできない。6 時間後延縄の巻き上げが終わり北北西、焼津へ一目散。夜には頭痛、めまい、吐き気、下痢。3 日目歯茎から血が出て止まらない。1 週間後、触ればゴソッと髪の毛が抜けるようになる。船の乗組員の平均年齢は 25 歳。原爆が落ちた 9 年前は子供で知識もない。戦時中から通信兵をしていた 40 歳の無線長久保山さんはアメリカ軍に傍受されるのではないかと 2 週間あまり何も言えなかった。3 月 14 日焼津港へ到着。すぐに病院へ。重傷者 2 人は東大病院へ送られる。読売新聞には「邦人が被爆、23 人が原子病」の見出し。何があったのか。アメリカは 1954 年 3-5 月、日本から南東に 4600 km 離れた太平洋マーシャル諸島のビキニ環礁などで 6 回に渡り水爆実験を行っていた。3 月 1 日爆発した水爆ブラボーは広島型原爆の 1000 倍の威力、アメリカの予想の 3 倍の結果だった。危険区域のすぐ外に第五福竜丸はいた。あの時乗組員が浴びた白いものは強い放射能を帯びたサンゴ片。死の灰。約半年後、無



線長だった久保山愛吉さんが亡くなり、人類初の水爆犠牲者となる。第五福竜丸の他にも船がいた。マグロは放射能マグロと呼ばれ廃棄され、魚が売れなくなる。5 月には日本にも放射能の雨が降り野菜も洗ってから売るように、そもそも野菜を洗う地下水は大丈夫なのか。健康に対する不安が高まり、広島長崎の惨状も思い起こされる。そんな中で東京杉並区のお母さん方が「核実験は止めて下さい」と立ち上がった。第五福竜丸のような被害が世界中で起きれば大変なことになると思われ、署名運動を始め、3 千万人以上の賛同を得る。これに呼応して世界では 6 億以上の署名が集まった。その後原水協が結成され核廃絶運動が広がった。子供を、愛する人を守りたいという思いから始まった核廃絶運動。今まで日中戦争から終戦までのことを中心に学んでいました。それで学んだつもりになっていました。反核の声が上がるまでに 9 年の歳月が経っていたことやその間にアメリカでも核実験で沢山の被爆者が出ていたこと。声が上がった後もベトナム戦争で核兵器使用の検討がなされていたこと、中国やインドも原爆を持つようになり、とうとう 1999 年には東海村で事故が起きたこと。自分達のような思いをこれからの人々にさせてはいけなくて被爆者の方々が懸命に伝えてくださっています。爆心地公園からの帰り道、長崎駅で「今日はね。平和公園で慰霊が行われてますがね。否定するわけじゃないけどいつまでもあんなんでも良いんですかね？いつまでアメリカの言いなりになってるんですかね？日本も核兵器を持つべきなんじゃないですかね。」とマイクを持ち叫んでいる人達がありました。若い人ばかりで戦争を経験した年代の方は 1 人もいません。今回長崎で沢山の戦争体験者の話を聞きました。戦争体験者で核兵器を持とうという人は 1 人もいません。

あなたたちは戦争体験者の話しをきくことが出来る最後の世代。伝えなければ 0 になってしまふと、後遺症に苦しみながらも戦争や原爆に対する恐怖を伝え核兵器を無くそうと伝えてくださる被爆者がいました。2 度と同じ思いを経験して欲しくない。自分達の経験を伝えることで若い世代のこれからのことにいかしてほしい。その心を受け継いで今回学んだ事を次代へ伝えていくことが私にできる平和活動ではないかと改めて思いました。微力だけれど無力ではない。今回は貴重な経験をさせていただきました。原水爆禁止原水爆禁止日本国民会議並びに鹿兒島県民会議の皆様、このような機会をいただきありがとうございました。

## 被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・長崎に参加して

奄美ブロック護憲平和フォーラム

代表 関 誠 之

原水爆禁止世界大会・長崎は、8 月 7 日から 9 日まで、長崎市の長崎ブリックホールを中心に「核も戦争もない平和な 21 世紀に！」をメインスローガンで開催された。

奄美からの参加希望者がいないので 6 年生の孫と 2 人参加できないだろうかと県フォーラムから打診があったと城村事務局長から知らされた。なぜ孫との 2 人かの疑問は、鹿兒島中央駅前で開催された「戦争 NO！」集会の際に披露した小学 6 年生の孫が書いた「話し合いがつくる平和」の作文内容に感動し「将来、平和を考えるきっかけになれば」との配慮であった。私は、7 月 2 日に不注意により「第 12 胸椎圧迫骨折」で激痛に泣かされていたが、孫と旅行できる「じいバカ」の思いは病状をはるかに超え、強烈なりハビリを克服し、

17 日間で退院自宅療養をしながら、歩行訓練と痛さに何とか抑えてこの旅行が実現した。少々前置きが長くなったが、初日 7 日の会開行事に間に合うスケジュールを組んでいたが、JR 新幹線かもめ 29 号が豪雨のため 1 時間余りの遅延となり行事途中の「高校生平和大使、高校生一万人署名活動実行員会」の高校生活動報告からの参加となった。翌 8 日の分科会「平和と核軍縮 1」－日本国内の動き、映画「ひろしま」特別上映会に参加、講演会は小学生には退屈ではとおもったが、最後まで席を立つことなく聞いていた。映画はあまりに残虐なシーンが多く、孫が顔をそむける状況が多くなり、約 1 時間でリタイアした。それに気づいた磨島事務局長の気遣いで長崎市内の「めがね橋」「稲佐山からの長崎全景」「くすのき神社」を案内して頂いた。孫も、この案内で気分を取り戻したようだ。

9 日の最終日は、私の圧迫骨折を考慮し平和行進を免除して頂き、孫と豪雨警報が出るほどの土砂降りの中「原爆資料館」へ見学に出向いた。原爆投下の日に当たり、かなりの人で会った。孫は昨日の映画等の記憶があるのか、ゆっくり丁寧に見学をしていた。見学途中、午前 11 時 02 分になったので、館内のみんなと一緒に黙とうを行った。今回の参考資料よりキーワードを抜粋する。「核と人類は共存できない」「被爆体験者は被爆者だ！」「核兵器はいらない」「ヒロシマから世界へ届けよう被爆者の声を」「核のない未来を」「被爆二世に国家補償を」「応援しよう！高校生平和大使（微力だけど、無力じゃない）」「被爆 80 年からその先へ、核なき未来をつくる」などである。このキーワードは、私たちの運動そのものであり、日ごろの運動の基本となっている。

奄美ブロック護憲平和フォーラムは、10 年余りの運動の結果、奄美本島の全 12 市町村町が平和首長会議に加入し「日本非核宣言自治体協議会」に奄美市、大和村が加入、全町村の加入拡大運動を継続している。これからも「核と人類は共存できない」を信念に！運動を継続していく。この旅では「老いては子に従い、孫に聞く」を実感した。

## 孫の想い「話し合いがつくる平和」

小学校 6 年 関誠之・孫の春馬 作

「戦争の反対は、話し合いだよ」と、ぼくが 5 年生の時、先生に言われました。その時、ぼくの中の「平和」の意味が変わりました。

また、ぼくの祖父は「戦争はしない。させない」と言います。この二つの言葉からぼくは、戦争をなくすためには、まず話し合いが大切なのだと気づきました。

ぼくは、どうして人は戦争をするのだらうと不思議に思って、調べてみました。一番の原因は、地下にある資源を取り合うことだそうです。



三年生の時に読んだ「ちいちゃんのかげおくり」というお話があります。戦争で家族を失った女の子のお話で、読んでいて胸が苦しくなりました。五年生の終わりごろ、戦争中の写真が展示されている会場に行きました。焼けた町、泣いている子どもたちの写真を見て、僕はこう思いました。「本当にこんなことがあったの？」と、ショックで言葉が出ませんでした。でもこれが本当にあったことだと知って、戦争のこわさを心から感じました。今も世界では、戦争が続いています。ウクライナの戦争で、小さな子供がなくなったというニュースを見たとき「ちいちゃんのかげおくり」のことを思い出して涙が出そうになりました。

夜にオスプレイや飛行機の音がすると「もしかして戦争が始まるのでは」と心配になるときがあります。ぼくたちの学校の上を飛ぶこともあって、とてもこわいです。

ぼくは、日本国憲法の勉強もしました。そこには「平和主義」と書かれていて、日本は戦力を持たず、戦争をしないことを大切にしていると知りました。

奄美が日本に復帰して 70 年、そして、日本は 80 年もの間、戦争をしていません。それは、平和を守る約束をずっと守ってきたことです。

ぼくは、世界の人みんなに「戦争の反対は、話し合い」だと伝えたいです。ちがう国同士でも、おたがいを信じて話し合いをすることが、平和への一歩だと思います。

ぼくはが思う平和とは「戦争のない」あたりまえの毎日が続いていく事です。笑ったり、勉強したり、けんかをしてしてもまた仲直りできたり、そういう日々がずっと続いて欲しい。そんな日々をこわすものが戦争だとしたら、それを止めるのは「話し合いと、信じあう気持ち」です。だからぼくはこれからも、戦争のない世界をねがい続けます。友だちにも、家族にも、世界の人たちにも、この気持ちを伝えたいです。

## 被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・長崎大会 参加レポート

南薩ブロック護憲平和フォーラム事務局長  
江川 昌孝(指宿市職労)

2025 年 8 月 7 日（木）～9 日（土）の 3 日間にわたり、長崎市内で開催された「被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・長崎大会」に、南薩ブロックから参加しました。

### 1. 開会行事（1 日目）

開会行事では、被爆者の訴えや高校生活動報告、海外ゲストスピーチなどが行われた。

被爆者の訴えでは、被爆体験者訴訟を行うお二人が登壇された。被爆したことは同じでも、爆心地からの距離で「被爆者」と「被爆体験者」に分けられ受けられるはずの支援が受けられない現実を知り、今も闘いを続けるお二人の訴えを、もっと多くの方に直接聞いてもらいたいと感じた。高校生平和大使・高校生 1 万人署名活動について、高校生がこれほどの活動をしているということに驚いた。平和への想いを若い方に伝えていくことが課題となっているが、この方々を中心に、多くの高校生が活動に参加するようになるよう、何か協力できることがあれば協力していきたい。

## 2. 平和と核軍縮Ⅱ－日本国内の動き（講演）／映画「ひろしま」（2日目）

名古屋学院大学の飯島先生の講演と沖縄平和運動センターからの報告、鹿児島県護憲平和フォーラム磨島事務局長から県内の動き等について報告が行われた。

軍備拡張の動きは馬毛島自衛隊基地建設やさつま町の弾薬庫建設計画など県内でも進められており、住民生活や環境への影響が生じている。全国各地で進む軍備拡張、原発問題、憲法改悪など、あらためて国内の現状や問題について確認することができ、まずは県内で生じている問題に、様々な活動で反対を訴えていきたい。

映画「ひろしま」を視聴したが、実際は映画よりも悲惨な状況にあったかと思うと、全く想像がつかず、原爆の恐ろしさを実感した。

## 3. 閉会総会（3日目）

悪天候により非核平和行進が中止になってしまい、一番雰囲気を感じてみたいと思っていた内容だったため残念であった。爆心地公園周辺は多くの方で溢れ、それぞれが平和への想いを訴えていた。各団体による献花・折鶴献納ののち、原爆投下時刻に黙とうを行い、大会終了となった。

## 4. 大会に参加して

全国規模の集会参加は初めてであったが、多くのことを知る機会となり、あらためてフォーラムの行う活動の重要性を感じた。もっと多くの、特に若い方に参加してもらい、色々感じてもらいたいとも思った。鹿児島ブロックから参加された方とも楽しく交流することができ、実りの多い3日間でした。参加させていただき、ありがとうございました。

## 核も戦争ない平和な 21 世紀に！

私鉄鹿児島交通  
日高 留美子

あの日から 80 年、私たちがつなぐ平和の祈りに参加させて頂きありがとうございました。開会式の前に午前中、定期観光バスで「平和の祈りコース」に参加したため今回のコンセプトにあったコースだったため、士気が高まりました。開会式では高校生の活動報告など、若い人たちの集いがある事を初めて知りました。

2 日目、午前中の分科会では「見て、聞いてナガサキ」に参加し、講師の川野浩一さんの話しを聞かせていただきました。川野さんは長崎です戦時中を生き抜き日本は勝つと信じながらも敗戦となり廃墟となった長崎…それでも川野さんからは何度も「幸せだった」の言葉が繰り返されたことが衝撃でした。川野さんは 1945 年小学 1 年生だったそうです。靴も洋服もランドセルも、もちろん食べ物もない…そんな物がない時代であるにも関わらず戦争が終わった事で、もう空襲もない、警報が鳴って防空壕に隠れなくてもいいそれだけで幸せだったとの内容でした。つまり



平和ボケしてる私たちには想像もつかない恐怖を体験したからこそ「幸せ」と言う言葉が出て来たんだと思います。

午後からは 話芸で学ぶ「平和と核」に参加し初めて落語を体験しました。落語の世界では有名なのかも知れませんが主人公を船「第五福龍丸」にたとえ、1954 年 3 月 1 日にアメリカの水爆実験によって被曝した日本のマグロ漁船の話でした。恥ずかしながら私には無知の事件で「ビキニ事件」と言われたそうです。乗組員 23 人が「死の灰」と言われる白い灰を浴び被曝し、無線船長の久保山さんが半年後に亡くなったそうです。広島、長崎だけじゃなかった…3 回も日本は被曝犠牲になってたのかと悔しく思いました。この事件をきっかけに反核運動が広まったそうです。その他、戦時中は落語家を使って国の望む事を喋らせる「国策落語」が存在した事に驚きました。

3 日目の閉館式は大雨となり爆心地までの行進は出来なかったのは残念でしたが、原爆投下の地で 11 時 02 分に祈りを捧げる事が出来た事は貴重な体験となりました。長崎大会を振り返り今まで広島、長崎の原爆の事は知っていながらも非現実的な感覚であった事は否めません…しかし、今回の大会に参加させて頂き、始まりと終わりでは確実に私の中で心動かされる何かがあった事は確かです。被爆者と被曝体験者とゆう区別がある事も知りませんでした。今回、初めて参加させて頂き、次回は私よりもっともっと若い世代にも参加してもらいたいと心から思う 3 日間でした。

今回の開催者全ての方々、敬意を表すると共に厚くお礼申し上げます。

## 「被爆 80 周年原水爆禁止世界大会」に参加して

始良伊佐ブロック平和運動センター  
事務局長 新名主 拓郎

今年で終戦 80 周年を迎え、新聞記事やテレビ報道など、原爆について多く目に触れます。原爆は一瞬で多くの命を奪うだけでなく、被災した後遺症や差別、爆心地から国が認定しない地域が、被爆者と同じ症状で救済の訴えも認めないなど、数多くの問題を抱えています。長崎大会の開会式では、被曝体験者の人口が減少する中、若い高校生を中心に平和大使として、平和への思いを語られました。また、海外からも同じく平和を訴えていました。2 日目の分科会では、日本国内の平和と核軍縮について、軍備拡張の現状と改憲へ向けた動きを学びました。日本は今「戦争ができる国づくり」につきすすんでいます。周辺諸国の問題を解決することは、軍備費を増額することではなく、対話で人々が暮らしやすい生活や社会保障の拡充をすべきであります。



鹿児島県内でも、馬毛島での米軍のための自衛隊基地整備が進み、日米仏比合同軍事訓練が行われ、弾薬庫、欠陥機オスプレーの離発着、鹿屋市での米軍無人機部隊配置など、みんなが知らないうちに無駄な税金が使われています。

3 日目目はあいにくの雨で、爆心地公園への行進は中止となりましたが「原爆と人間展」の会場でお預かりした千羽鶴を原爆中心地へ献納し、恒久平和を祈ることができました。

私事で恐縮ですが、始良伊佐ブロック平和運動センターの事務局長職が残り僅かとなりました。この 2 年間多くのことを勉強させていただきました。

被爆 80 周年原水爆禁止世界大会・長崎大会が最後の研修地となりましたが、これからも平和や環境問題について、意識して行動していきたいと思えます。

ありがとうございました。

## 「被爆 80 周年原水爆禁止世界大会」に参加して

第一佐多中学校分会

吉之元 一也

行く前から長崎市は 3 日間共、雨の予報であった。8 月 7 日(木)早朝、勇躍して自宅を出たが、長崎道では前も見えないくらいの豪雨に見舞われ、高速道路が 50 km規制になるほどだった。長崎市内に入ると、雨は小降りになり、ホテル付近の駐車場に車を停めた後、何とか歩いて早めに会場に到着した。鹿児島のメンバーと落ち合い、全体会に参加。高校生の若さと存在感に圧倒された。夕方にはホテルのそばの居酒屋を貸し切って懇親会に参加。お酒も入って、ずいぶん打ち解けた雰囲気一日目を終えることができた。

2 日目には分科会⑥「見て、聞いて、学ぼうナガサキ」に参加。最初に被爆者の方が講演をし、次に絵本作家の方が話をされたが、タイトル通りの学習内容となった。つまり絵本の絵をパワーポイントで見て、被爆者の方の話を聞いて、原爆の悲惨さを学べた会であった。午後からは分科会⑦映画「ひろしま」の上映会に参加した。1953 年制作の白黒映画で、広島県の教職員組合が制作しているのが、まず驚きであった。原爆投下の場面では当時の映像技術のせいか、迫力に欠けるものの被爆者の衣装や格好には工夫を凝らしていた。登場人物の「被爆したせいで結婚できない」という台詞には心を打たれてしまった。

三日目は大雨のなか閉会行事に参加。長崎県立体育館の屋根に響くくらいの雨音が鳴っていた。そのせいで予定されていた平和行進は中止となり、閉会行事終了後、解散となったものの、自分は爆心地公園に行ってみることにした。雨の降りしきる中、歩いていると、黒塗りの VIP 車両が何台も平和公園に曲がってゆく。その中の一台に石破首相の車があった。爆心地公園に近づくと雨は小降りとなった。気が付くと鹿児島県の代表団も皆、帰ることなく、爆心地公園に集合していた。小降りだった雨も午前 11 時にはやみ、投下時間の 11 時 2 分には爆心地公園で 1 分間の黙祷を捧げることができた。その後すぐ、無料の原爆資料館に行ったが、自分のすぐ後ろのグループからは締め出された。それは石破首相が来館するからだったという。



幸い見学できたが、鹿児島県の大雨も気になり、見学後すぐ車で長崎をあとにした。